

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

ハクサン染工株式会社本社工場  
におけるボイラー更新事業

排出削減事業者名：ハクサン染工株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	ハクサン染工株式会
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	ハクサン染工株式会社 本社工場
住所	石川県金沢市専光寺町レ3番地の11
排出削減事業共同実施者	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

ハクサン染工株式会社本社工場におけるボイラー更新事業

### 2.2 排出削減事業の目的

本事業はA重油焚きボイラー3基をLNG焚きの高効率ボイラー5基に更新し、CO2を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

ハクサン染工株式会社本社工場において、既設のA重油焚きボイラー2基をLNG焚きの高効率ボイラー5基に更新する。これによりエネルギー効率を改善し、さらに燃料をA重油からより低炭素のLNGへ切り替えることにより、CO2排出量を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2013 年 1 月 28 日

#### 3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2018 年 1 月 28 日 ～ 2020 年 9 月 30 日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、ハクサン染工株式会社本社工場において更新される

A 重油焚きボイラー及び LNG 焚きボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の LNG 使用量	ton	2017 年度： 329.66 2018 年度： 1,708.34 2019 年度： 1,402.01 2020 年度： 515.78	各ボイラーに設置された流量計で計測。ただし、LNG を気化するために使用する量（ボイラーが生産する蒸気量の 1.5%）を差し引く。また、流量計の単位は Nm <sup>3</sup> であるため、kg への換算係数を乗ずる。	変更なし
	LNG の kg 単位への換算係数	kg/Nm <sup>3</sup>	2017 年度： 0.765 2018 年度： 0.771 2019 年度： 0.787 2020 年度： 0.801	ガス供給会社提供の値	変更なし
$\varepsilon_{Pj}$	更新後のボイラー効率	%	88.37	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$\varepsilon_{BL}$	更新前のボイラー効率	%	81.59	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（LNG）の単位発熱量	GJ/kg	2017 年度： 0.0545 2018 年度： 0.0547 2019 年度： 0.0547 2020 年度： 0.0547	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（LNG）の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	2017 年度： 0.0513 2018 年度： 0.0510 2019 年度： 0.0510 2020 年度： 0.0510	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料（A 重油）の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	2017 年度： 0.0708 2018 年度： 0.0708 2019 年度： 0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし

	数		2020年度：0.0708		
	高位発熱量時から低位発熱量時への換算係数。	A重油：0.944 LNG：0.911	J-クレジット制度のデフォルト値	高位発熱量時から低位発熱量時への換算係数。	変更なし

## 6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

### 6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
2017年度	329.66	54.5	0.0513	921.7
2018年度	1,708.34	54.7	0.0510	4,765.8
2019年度	1,402.01	54.7	0.0510	3,911.2
2020年度	515.78	54.7	0.0510	1,438.9
単位	ton	GJ/t	tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>PJ</sub>				11,037.6

### 6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
2017年度	19,459.35		0.0708	1,377.7
2018年度	101,211.47		0.0708	7,165.8
2019年度	83,062.71		0.0708	5,880.8
2020年度	30,557.92		0.0708	2,163.5
単位	GJ	—	tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>BL</sub>				16,587.8

### 6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
2017年度	0			0
2018年度	0			0
2019年度	0			0
2020年度	0			0
LE				0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	16,587.8
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	11,037.6
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	5,550

## 7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
	6,035.5	5,572.4	463.1

省エネルギー量 (原油換算) : 463.1 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

なし